

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2022.3 Vol.146



今井 胡桃選手
(スポーツ健康学科4年)



岩淵 香里選手
(2015年度卒業)



杉本 幸祐選手
(2016年度卒業)



特集

在学生の今井選手、卒業生の岩淵選手・杉本選手

北京冬季五輪大会出場

— 本学「強化選手制度」の一つの到達点 —

P.02

●卒業生の新たな門出を祝して
2021年度学位授与式

P.05

●多くの学生が将来の夢や目標に向けて資格試験に挑戦
～手厚いサポートと資格奨励金制度で学生を応援～

P.10

●教職を目指す後輩へ 先輩から激励とメッセージ

P.13

●創部以来初となるJFL選手を輩出

瀬戸 匠海選手 FC神楽しまねへ入団

P.15 ほか

特集

在学生の今井選手、卒業生の岩淵選手・杉本選手

北京冬季五輪大会出場

— 本学「強化選手制度」の一つの到達点 —



スノーボード・ハーフパイプ

今井 胡桃 選手

スポーツ健康学科4年
プリオHD所属



ノルディックスキー・ジャンプ

岩淵 香里 選手

スポーツ健康学科2015年度卒業
北野建設所属



フリースタイルスキー・モーグル

杉本 幸祐 選手

スポーツ健康学科2016年度卒業
デイリーはやしや所属

2月4日に開幕した第24回冬季五輪北京大会に、本学から、在学生の今井胡桃さん（スポーツ健康学科4年）、卒業生の岩淵香里さん（スポーツ健康学科2015年度卒業）、同じく杉本幸祐君（スポーツ健康学科2016年度卒業）の3人が出場しました。

2月5日付けのWEB版「AERAdot.」によれば、北京大会出場選手の出身大学を見ると、トップの早稲田大学（18人）、2位の日本大学（7人）、3位の中京大学（6人）に続いて、7位に信州大学や専修大学と共に松本大学がランクインしました。お分かりのとおり、上位の大学はことごとく都市部の大規模大学であり、10位までに入った地方の小規模大学は北海道文教大学と本学のみという“快挙”でした。今回は本学のみならず地元で元氣や感動をもたらしてくれた3名をはじめ、これまでも世界を舞台に戦ってきたアスリートたちの努力に敬意を払うとともに、本学の課外活動政策についてご紹介します。

「夢」が結実した北京オリンピック

スキー部部长 大学院健康科学研究科・スポーツ健康学科 准教授 齊藤 茂

2007年、人間健康学部スポーツ健康学科1期生のスノーボードアルペン競技の丸山美樹さん（2010年度卒）と「松本大学スキー部」を立ち上げました。彼女は在学中にW杯を転戦し国体でも優勝、卒業後には全日本選手権でも優勝します。その後も、世界を舞台に戦うアスリートたちが続けて入学してきました。実はその当時から、いつの日か本学出身の選手がオリンピックに出場することをひそかに夢みていました。

その夢をはじめに叶えてくれたのが、ノルディックスキー・ジャンプの岩淵香里さんです。2018年、平昌オリンピックに初めて本学

出身のオリンピックとなって出場することになり、私も平昌までご家族と応援に行きました。あの時の興奮と感動は今も忘れられません。そして4年後の2022年、創部当時の「夢」を超える事態が起こります。在学生1名と卒業生2名、併せて3名の本学出身者が同時に北京オリンピック出場を果たします。スノーボード・ハーフパイプの今井胡桃さん、フリースタイルスキー・モーグルの杉本幸祐さん、2大会連続の出場となった岩淵さんです。本学の規模から言えば、快挙と言ってよいでしょう。※なお、今井さんは高校3年時の平昌オリンピックにも出場しており、彼女も2



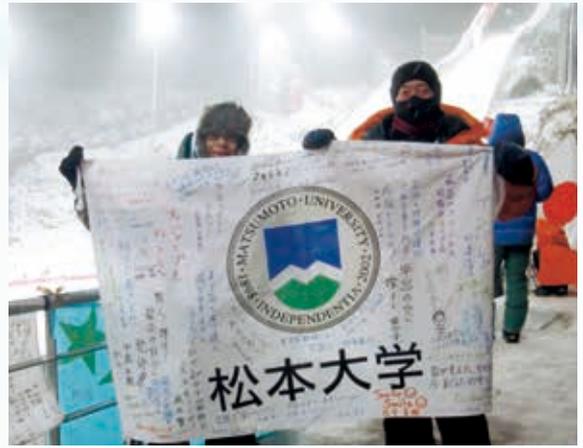
スポーツ健康学科1期生の丸山美樹さん（写真左）

大会連続の出場です。

唯一の初出場となった杉本さんは、27歳で初出場となった「遅咲き」のアスリートとして話題となりました(滑走中にストックが折れてしまったことでも話題になりました)。大学卒業から初出場となる今回のオリンピックまでの5年間を支えていただいたのが、初のアスリート社員として彼を採用いただいた株式会社デイリーはやしやさんです。4年生になってもなかなか所属先が決まらない中、実は半分ダメ元で採用のお願いに伺ったときの赤羽眞太郎社長(現会長)の言葉は今でも忘れられません。曰く、「このような夢のある話をうちの様な会社に持ってきてくれてありがとう」、まさに鶴の一声で彼の競技人生がつながりました。まさかの言葉に、二人で涙したことを思い出します。彼の努力は言

わずもがなですが、大学卒業後の所属先に恵まれたことが彼をオリンピック出場へと導いたことは間違いありません。大会期間中、私の旧友である同社の副社長からは「特別な時間を過ごさせてもらって感謝です」というメッセージが送られてきました。オリンピック出場とは、アスリートを中心とした多くの方々「夢」が結実した結果なのだと思います。

「人の夢は終わらねエ!」某人気漫画の名セリフではありませんが、彼ら彼女らに続き、夢を実現させる学生たちをこの松本大学から輩出していきたいと思っています。最後に、



教職員からの寄せ書きを持って岩渕選手の応援 2018年平昌オリンピック

「岩渕、幸祐、胡桃ちゃん、夢のような時間をありがとう!!」

以下、北京オリンピックを終えた3名からのコメントです。

今井 胡桃さん

平昌オリンピックに続き、北京オリンピックに出場できたことを嬉しく思います。平昌オリンピックが終わってからこの4年間、大学生活と競技生活の両立をする道を選び、海外遠征が多い私には正直難しいことばかりでした。ですが、たくさんの先生方や周囲の方々の応援や協力、支えがあったからこそここまで来ることができました。今回のオリンピックでは自分の納得する結果を得ることはできませんでしたが、見てくださった方に感動や勇気を届けることができているなら、私がオリンピックに出た大きな意味になると思います。たくさんの応援をありがとうございました!!

岩渕 香里さん

未知のウィルスや条件の良し悪し、自分にコントロールできないものとも戦いながら持てる力を出し切れた大会になりました。進化を続ける松本大学のように、ここで止まらず私も進化をしていきたいと思っています。

杉本 幸祐さん

自分のスキーを大舞台で披露できたことは嬉しく思います。しかし、今回のオリンピックはまだ通過点なので、この先の目標に向かってさらに精進していきます。応援ありがとうございました。



左から今井選手と岩渕選手(北京オリンピックにて)



左から杉本選手と岩渕選手

世界を舞台に活躍するトップアスリートを様々な面から支援 強化選手制度

副学長・スポーツ健康学科 教授 等々力 賢治

今回の3名の北京冬季五輪大会出場は、偶然の産物であると考えているわけではありません。その背景に、本学が戦略的に取り組んできた課外活動政策、その中でも「強化選手制度」があり、今回は、その一つの到達点であると捉えているからです。

強化選手制度は11年前に策定されました。その狙いは、全国あるいは世界レベル(になるかも知れない者も含め)のトップアスリート、それも、長野県内に練習場所があって指導者もいると思われるウィンター・スポーツに絞って、本人の意志を尊重しつつ受け入れ、学修支援と、費用面の補助は後援会からも含め大学が、そして施設面と指導面は競技団体が、という形でそれぞれ分担し協力して育成・強化に取り組むというものです。岩淵さんは、この制度が適用された3人目のアスリートであり、シーズンオフは大学での学修、特に「スポーツ心理学」「スポーツ栄養学」「トレーニング論」等といった、自らの体力・競技力向上に直結する学修を中心に真面目に取り組んでいた印象があります。また、シーズン中さらには海外遠征期間中もレポート等の提出にきちんと応え、順調に学修を重ねて卒業し、地元の支援企業に就職して現在に至っています。

その後、松本市周辺が格好の練習場所

あり、元オリンピックの指導者が複数名居住している自転車競技にも進学を希望する者が出てきたことで、これについても制度の対象とするようになりました。こちらにも、全国レベルで活躍するアスリートがはじめており、これからが楽しみです。

本制度は、多数の有力アスリートを受け入れるばかりで、言ってみれば“放たらかし”であった大学スポーツの在り方に一石を投じたいという想いに加え、チームスポーツのような過重な財政負担を多少なりとも回避するという狙いを基に発想されました。その意味では、今回の快挙は成功例であり、オリンピック出場者3人というのは、その一つの到達点であると言ってもよいかと思います。冒頭のWEB版の記事によれば、11位に群馬

県の高崎健康福祉大学があり、本学と同じ(と思われるような)コンセプトでアスリート育成を行っているようですが、そうした動きは、今後一層高まるかもしれません。しかしながら、そうした動向を気にして、アスリートを単なる“駒”にしたエンドレスの競争の渦の中に入ることにならないよう、松本大学らしく学生を大切に、地元出身のアスリートを中心に育て、地元の職場に輩出していきたいと考えています。

今回の出場者3人の活躍は、大いに誇れるものであり、本学を励ましてくれました。それを受け、強化選手制度の強みと優位性を確認することができたかと判断しています。近い将来訪れるであろう、第2の到達点にもご期待ください。

TOPICS

このほかにも世界を舞台に活躍している松大生

前田知沙樹さん(アルペンスキー/松本大学大学院研究生)も在学中は強化選手制度を活用して国内外で幅広く活躍。

2021年9月にチェコで行われたグラススキーの世界選手権では、全4種目を制し、2大会連続で4冠を果たすなど、さらなる飛躍が期待されます。



多種多彩な課外活動から本学を代表するクラブを支援する 強化部、重点部制度

全学学生委員長・スポーツ健康学科 教授 岩間 英明

松本大学では現在、関甲新学生野球連盟1部に所属する硬式野球部、14年連続でインカレ(全国大会)に出場している女子ソフトボール部、北信越大学サッカーリーグ1部に所属し、2度の全国大会出場を果たしている男子サッカー部の3つの強化部と、個人種目でインカレに出場している陸上競技部が重点部として強化クラブに指定されています。強化クラブは指定条件が定められており、大学が多くの支援をしています。

例えば、強化クラブ以外の一般クラブは、学外指導者制度の利用も一部にはあるものの、その多くは教員が部長として部の運営管理を担っています。一方、強化クラブには部長以外に、各種目のエキスパートがコーチとして1~2名雇用されており、技術や戦術を中心とした専門的な指導をしています。

さらに、公式戦、練習試合、合宿等の遠征時の宿泊費の補助、校用バスの優先使用、用品・用具の購入費用についても大学から補助をしており、練習等で一般学生のようにアルバイトができない部員の経済的な支援を行っています。

このように強化クラブは本学を代表するクラブであることから、今後、一層の活躍を期待すると同時に、本学の建学の精神、理念、

使命・目的などに照らし合わせて、さらに支援していきます。



強化部・重点部の指定要件

- ① 本学の社会的評価を高めることに資するクラブであること
- ② 本学学友の範となり、帰属意識を高めることに資するクラブであること
- ③ 当該活動における強化目標が明確であること
- ④ 当該活動における指導計画が明確であること 等

卒業生の新たな門出を祝して -2021年度学位授与式-

春の日差しが降り注ぐ3月11日、本学第一体育館を会場に、2021年度学位授与式を挙行いたしました。総合経営学部174名(総合経営学科92名・観光ホスピタリティ学科82名)、人間健康学部178名(健康栄養学科74名・スポーツ健康学科104名)、教育学部68名、松商短期大学部195名(商学科100名・経営情報学科95名)、大学院健康科学研究科 博士前期課程6名の計621名が希望を

胸に、それぞれの道に歩みを進めました。卒業生・修了生を代表して、学友会会長を務めた観光ホスピタリティ学科の村瀬諒祐さんが、大学4年間を振り返り、家族や仲間、恩師への感謝の言葉を述べるとともに、「地域社会への貢献を目標に、自分自身で判断、行動し、乗り越えていくとともに、どんなときも一人ではないということ、いつも温かく迎えてくれる仲間がいるということをお忘れず、一歩



一歩踏みしめながら歩んでいきます」と今後の飛躍を力強く誓いました。

新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、卒業生・修了生および教職員のみでの参列とし、式典の様子はYouTubeでのライブ配信を行いました。(総務課長 赤羽 雄次)

難しい条件下でも多くの学生が参加 2021年度「梓乃森祭」(大学祭)を振り返って

全学学生委員長・スポーツ健康学科 教授 岩間 英明

本学の大学祭である「梓乃森祭」は、第53回(2019)は長野県にも大きな被害をもたらした台風19号の接近に伴い中止。第54回(2020)は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い午後からのオンライン開催を余儀なくされ、この2年間これまでのように開催することはできませんでした。

大学生活における大学祭は単なる娯楽ではなく、大学の過去を見つめ、今を語り継ぎ、新しきことを生み出す契機とする営みであり、学生一人一人の思いや願いを紡ぎ、喜びを分かち合い、学内はもちろん地域社会とも繋がる機会となるものです。

そうした様々な想いを込め、学友会学祭



局を中心に今年度第55回「梓乃森祭」をスタートさせるはずだったのですが、周知のとおり今年度も新型コロナウイルス感染症の猛威は止まらず、開催期日の延期を経て、結果的には12月にオンラインと対面のハイブリッド開催となりました。

これまでにない新しく、難しい条件下での開催でしたが、学祭局のメンバーを中心に、学友会が一体となって、11時のオープニングから始まり、各種発表、レクリエーション大会、お笑いLIVEなど、多彩な内容で17時30分のエンディングまで、徹底的に盛り上げようと努力してくれました。開催に至るまでの過程にはたくさんの困難があり、運営メンバーは心を痛み、頭をフル回転してくれたことは容易に想像できます。

その結果、対面参加者は約150名(感染対策として150名を上限として申込受付)、オンライン参加はユーザー数649名、視聴回数1,477回(同時接続で最大100程度、その



状況が長時間続きました。)と、この難しい状況下でありながら予想以上に多くの学生が参加してくれたのは、偏に運営メンバーの努力の賜物であり、それを支えてくれた学生課職員の方だと思います。

地域立大学を謳う松本大学にとって、「梓乃森祭」という貴重な行事がこうした努力によって受け継がれていったことを学生の皆さんは心のどこかに刻んで欲しいと思います。そして、来年こそ、さわやかな信州の秋風の中で多くの人々が笑顔で集う「梓乃森祭」が開催されることを祈りましょう。

学長賞受賞おめでとう!

学長賞は、学術・芸術・社会・体育・文化活動等において他の模範となる成績を収め、卓越した活動が社会的に高く評価された個人または団体に贈られる賞です。授賞式は、「第55回梓乃森祭」オープニングセレモニーの中で行われ、今年度は、個人2名と2団体が受賞しました。

第12回(2021年度)学長賞受賞者

■ 今井 胡桃 (スポーツ健康学科4年: 課外活動)

スノーボードハーフパイプの日本代表選手として国内外の様々な大会で優秀な成績を収めた。(2大会連続となる北京2022冬季オリンピックにも出場)

■ 中村 留奈 (観光ホスピタリティ学科4年: 学業、課外・社会活動)

中国河北大学への留学実績や平和推進活動をはじめ、ゼミ活動や国際交流活動への主体的な取り組みを高く評価。

■ 男子サッカー部 (課外活動)

総理大臣杯全日本サッカートーナメントへの出場を果たすなど大きな実績を収めたとともに、日本サッカー協会から功労表彰を受けた。

■ 国際交流クラブ (課外活動)

発足から12年間の長きにわたり、本学学生と留学生を支え、地域のグローバル化に貢献。昨今ではオンラインを駆使し、さらにその活動の場を広げている。



卒業研究・卒業論文発表会

大学や短大での研究活動の成果を発表する「卒業研究・卒業論文発表会」が各学部、学科において行われました。コロナ禍で様々な制限がある中で、一生懸命に取り組み考察したものを卒業研究・卒業論文としてまとめ発表しました。オンライン形式での開催となった学部もあり、例年とは違う環境に戸惑いもあったと思いますが、それぞれ学びの集大成に相応しい発表会となりました。卒業生たちのこれからの活躍に期待しています。

総合経営学部 総合経営学科

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ	氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
岩淵 隼也	室谷	データでわかるバレーボールの特徴	大谷 航平	清水	「道の駅」の複合施設化と地域活性化
小島 一斗	室谷	トップスを取り越えた卓球選手の心理的成長およびトップス改善のための糸口	寺澤 郁哉	清水	コロナ禍における就職活動生の就業意識の差異に関する実証研究
桜井 玲	室谷	砂糖の歴史と推移	大塚 美穂	清水	アフターコロナの社会変化とイノベーションの考察
高橋 健太	室谷	年齢・性別によるYouTube広告の違い	日下部拓海	清水	聖地巡礼を利用した「道の駅」の可能性
瀧野 紫音	室谷	樺坂46について～ファン心理と坂道グループの売り出し戦略から考える～	中沢 夏輝	清水	プロスペクト理論についての考察と活用法の研究
竹内 深人	室谷	多種の動画共有サイトから見る課題	仲 優騎	佐藤	価格規制が消費者行動に及ぼす影響
千村 楓	室谷	マルチ商法 (Multilevel Marketing) 対策と課題	荻原 大輝	佐藤	自動運転技術への規制
永井妃呂乃	室谷	東京2020オリンピックでTwitter上の人々の反応	小池 愛斗	佐藤	金利の変化が住宅ローンの返済金額に及ぼす影響
藤澤 亮太	室谷	すぐにでも始められるちょっとしたお金稼ぎ	藤井愛紗奈	佐藤	コメ農家による第5世代通信規格の利活用
百瀬 生萌	室谷	p5.jsのコーディング	新林 拓朗	佐藤	
伊藤 有沙	兼村	日吉屋の京和傘はなぜ再生したのか?	川久保友貴		
原 光太郎	兼村	地域一次産品ブランド確立のためには?	関口 未紗	小林	月と株の関係性
柳澤 新	兼村	なぜ従業員第一主義は顧客満足につながるのか?	松澤 優菜		
湯田坂美裕	兼村	障害者雇用について考えるー特例子会社の現状と課題を通じてー	小林 響	小林	株取引を用いた奨学金の返済に関する研究
横山 尚輝	兼村	従業員のやる気を引き出すには?ー未来工業を事例にー	上村 隼斗		
小林 洸太	古川	昆虫食の受容と普及に関する考察ー昆虫食に対する若者の経験・認識からー	宮之上尚輝	小林	株式チャートから見るソーシャルゲームの動向
松山 剛	古川	長野県における新型コロナウイルスの感染動向に関する地域分析	芳川 智紀		
赤羽陽南乃			小林 翼	小林	東証一部上位3社のPPPで買いをしたらいくら利益が出る
飯島夏恵恵	清水	「ナカジョニーのうた」MV制作	齋藤壮一朗		
百瀬 愛			大日方謙介	小林	株式会社オリエンタルランドの株式運用の収益
石坂 諒	清水	新型コロナウイルスが与えた社会動向と地域活性化への影響			
宮崎 凜					

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ	氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
清澤 岳	中澤	観光地白馬における景観形成の課題	宮下 拓万	山根	障がい者の視点から考察した安曇野市のユニバーサルツーリズムの実態と提案
猪又 星南			北澤 柚香	山根	Jリーグクラブの地域活性化における一考察ー松本山雅FCを事例にー
小宮山 惇			藤田 達也	尻無浜	地域の防災力を高めるための効果的な取り組みの検証について
酒井 優美			雨宮かつみ		
佐藤 未希	中澤	地域特性に合う観光開発に向けた課題	宮本 美里	尻無浜	生活支援体制整備事業(介護保険制度)にみる移動支援のあり方についてー松本市白板地区放光寺町会の取り組みを中心としてー
佐藤 裕信			阿部 千尋		
若林 香澄	中澤	旅行ができない子どもに向けたバーチャル観光の可能性	千野 泰聖	向井・増尾	住民主体のコミュニティづくりの研究ー高齢者と学生の多世代交流の事例を通してー
山岸 舞衣	中澤	社会のモビリティ分野における脱炭素エネルギー化への課題	小林 颯	増尾	地域における情報発信の有用性とあり方
赤羽 裕紀	中澤	山岳観光の開発とバリアフリー	小松 大裕	増尾	地域における情報発信の有用性とあり方
宮下 真幸	中澤		東城 直樹		
岩崎 勇貴			島川 大輝	向井	犀川通船は、地域にどのような影響を与えたのかー地域の歴史を継承し、まちづくりに活かしていくためにー
小林瑠輝也	益山	佐久鯉を活かした地域活性化	本間 洋人		
下里 歩夢			菊地 萌加	増尾・向井	隠れ食品ロス削減に向けた新たな流通経路の構築
中島峻太郎	益山	学校登山の意義と参加者の意識の変化に関する調査	村瀬 諒祐		
伴場 洋紀			高木 美緒	向井	松本市のお土産研究とこれからの課題
水本 葵	益山	松迎えの行事と門松飾りの変化ー長野県北信地方・長野市西山地域を中心としてー	久保田梨帆		
小平 唯	益山	グランピング体験と観光地に関する調査			
中村 留奈	益山	中国越境ECにおけるKOLの販売促進効果			

人間健康学部 健康栄養学科

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ	氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
鈴木香夏美	青木	一大学生の栄養素の吸収指標および体のコゲ(糖化)・サビ(酸化)の指標を食事摂取内容との関係でみる	青木 弥佳	木藤	ドイツの伝統的漬物であるザワークラウト発酵過程の乳酸菌等の変化
小林 早希	弘田	再生セルロース繊維によるSDGsに配慮した抗痒み効果の高い被服素材の評価	篠原 紀	福島	カニバリズムが許されない社会
倉科 大雅	長谷川	ソフトボール部に所属する大学生アスリートの食環境と食生活の実態	木次 捺海	矢内	芸能活動を行う20代女性に必要な栄養情報の提案
森田 紗矢	成瀬	ながら食べにおける咀嚼回数と食事時間および空腹感との関係	清瀧 千晶	山田	ラット PEPCK 遺伝子の SHARP family による転写抑制機構の解析
鈴木 春奈			立花 真凜		
高岡 実理	石原	メロンアレルギーへの対応ーメロンの代替食品の作成ー	松澤 優依		
山崎 紗綾			小林 和奈	高木	6-MSITCによる糖新生系酵素 PEPCK 遺伝子の転写抑制機構の解析
関森 夏々			山岸 菜々	廣田	大学生を対象とした集団栄養指導実施者の対象者に対する認識と実際
松尾優芽花	沖嶋	リンゴPFAS主要アレルゲンコンポーネントMal d 1のELISAによる定量および経口負荷試験による低アレルゲン性リンゴ品種の選抜	内山 結衣	平田	大学生の野菜摂取と食育の関連性
渡辺 花純			大島慎太郎		
飯田 亜美			渡邊 美南		
井原 李音					
今井 遥花	藤岡	プレフレイル高齢者へのアガロオリゴ糖介入によるフレイル進行阻止:パイロットスタディ			
小林菜奈実					
酒井 晴香					



人間健康学部 スポーツ健康学科

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ	氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
中島 大智	等々力	広島東洋カープが黒字経営を続けられた理由とは —球団の経営戦略と今後のプロ野球界—	藤元 彩	中島(節)	男性養護教諭の課題と期待
塩澤 玲奈	根本	新型コロナウイルス蔓延期の中で、 健康講座に参加する中高齢者の健康観	小山 研太	丸山	八村塁、トッププレイヤーへの道
高山 莉玖	中島(弘)	両親の運動嗜好性と環境因子が幼児の運動能力に及ぼす影響について ～認定こども園Fの年長を対象として～	牛山 巧太	等々力	これからの日本のeスポーツ界 —比較と問題点から考える今後の展望—
瀧田 圭吾	岩間	学校運動部活動におけるグッドコーチとは	篤木 花	岩間	オンライン授業実施における諸課題の検討
水野 媛世	齊藤	大学生を対象としたコーヒーの飲用実態に関する調査	古澤 愛菜	齊藤	大学生を対象とした恋愛に対する価値観の調査
篠原千早希	上野	働く女性の現状と課題	立木 英翔	上野	学生・労働者が考えるブラック企業
渡部 翔太	小松	「運動遊び」による握力の向上は測れるのか	高橋 拓慎	根本	大学生における椅子立ち上がりリテストは最大下肢筋力の推定に有効か
細川 悠妃	伊藤	就学前児童のアライメントが日常生活動作に与える影響	古林 大輝	田邊	すいか栽培が農家の身体に及ぼす影響について
北原ひかる	新井	「男同士の絆」を支える女性の役割 —サッカーマンガから—	蜂谷 祥希	中島(弘)	バレーボールにおけるポジションと受傷部位の関係
内堀 岳宏	田邊	アーチの高さが跳躍力に及ぼす影響について	小林 凌	丸山	人間が8の字歩行をするために必要な下肢の動きについて
藤網 和仁	山本	大学陸上短距離選手の等速性股関節筋力が 100m走の一次加速局面に及ぼす影響	片岡 優人	伊藤	サッカー選手の主観的パフォーマンス向上に与える要因の検討 —身体組成と間欠性回復テストに着目して—
丸山 穰世	河野	筋損傷後に再生した骨格筋の特性変化検討	福嶋 竜星	新井	日本における性的マイノリティの人々の スポーツ参加の機会の確保に関する研究

教育学部 学校教育学科

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ	氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
深井 智也	岸田	オンライン授業への意識の変化とその起因から見る 改善点と課題の考察	藤松 彩絵	上月	グリム童話の価値に迫る読みの学習デザインの検討 —構造分析と比べ読みを通して—
宮澤 悟	守	役割反転型Asch実験における社会的誤答仮説の検証: Online実験の対面実験による再検証	久保田雅崇	小林	発達障害児の食に関する実態についての一考察 ～偏食の実態と対応について～
中山 悠奈	安藤	特別支援学校における音楽科の授業に関する一考察 —小学校との比較から—	西澤 史織	樋口	ASD等の障害に起因する女性特有の困難に対する支援の在り方
田村 瞬介	佐藤	算数小学校第5学年「速さ」の学習指導に関する研究	宮尾 拓也	秋田	シミュレーションを用いて主権者教育における 多数決原理の効果を捉えさせる小学校社会科教育 —第6学年「国の政治のしくみと選挙」より—
林 里音	藤原	日本の英語教科書におけるマルチモダリティ分析の一考察 —難易度とレイアウトの観点から—	唐澤 洋成	濱田	構成主義的学習観に基づいた体育授業に必要な要素 —質問紙調査の結果から—
町田 玲香	和田	データ駆動型学習を使用した中学校外国語科の文構造学習の一提案	内田 諒太	澤柿	電気回路における児童生徒の素朴概念と授業デザインに関する研究
前田 恵花	大石	日本人移民とハワイの産業構造の変化に関する研究			
宮本 蒼生	大蔵	現代において公民館が果たしうる学習施設的作用についての研究 —学校教育機関との連携事例の研究から—			

松商短期大学部

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ	氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
三島 菜緒			小木曾愛実	伊東	広報誌から広がる世界
川上 夏希	中村	ディズニー映画におけるグローバル化～男性の視点から～	福嶋絵美梨	飯塚	アイドル戦国時代を生き残り！坂道シリーズから学ぶ経営戦略
宮田 泉美			舘野 玲美		
長谷尾彩華			市川 愛菜	浜崎	3Dアプリケーション (VR) の開発
樋口 鈴乃	廣瀬	ステッキのオリジナルデザイン～世界に一つだけの杖～	辻峰 雪		
山本 結子			原田 佳奈	糸井	日本の半導体産業の再生に向けて
中村 茉莉					

大学院健康科学研究科修士論文審査発表会

基礎から臨床まで、 健康科学領域における幅広い研究

健康科学研究科 副研究科長・スポーツ健康学科 教授 河野 史倫



2021年度修士論文審査発表会が2月15日に開催され、6名の修士予定者による発表が行われました。細胞やマウスを用いた基礎研究から現場における運動・栄養指導を対象とした臨床研究まで幅広い分野における研究成果の報告がなされました。本研究科には社会人大学院生の在籍が多いという特徴があります。各専門領域の現場における疑問や問題点が発表の中で提議されました。現場を支える専門職の意見や考え方が共有できることは研究科全体にとって有意義であるとともに、社会人大学院生には研究で得た学術的見識をそれらの問題解決に今後活かせることを期待します。発表会全体を通じて、個々の特徴を捉え活かした介入・支援の重要性を強く感じました。

発表者	論文タイトル	
島田 まゆみ	児童発達支援センターにおける障害のある子どもの保護者の食に関するエンパワメントを支援するための質的研究	Qualitative Research to Support Empowerment on Dietary Life for Parents of Children with Disabilities at the Child Development Support Center
土井 麻弓	後期回復期心臓リハビリテーションプログラムにおける活動量計の有効性	Efficacy of Activity Meter in Late Convalescent Phase Cardiac Rehabilitation Program
小坂橋 瑠佳	3T3-L1 脂肪細胞におけるcAMPシグナル系による糖代謝調節遺伝子の発現調節機構の解析	Analysis of regulatory mechanism of sugar metabolic regulatory genes by cAMP signaling pathway in 3T3-L1 adipocytes
清水 純也	運動誘発性H3K27me3修飾は骨格筋の遺伝子応答を強化する	Exercise-induced H3K27me3, an epigenetic system enhancing the gene responses to exercise in mouse skeletal muscle
頼所 愛理	壮年期における野菜摂取頻度に影響を与える生活習慣および食行動・食態度について—質問紙を用いた量的調査と特定保健指導担当者へのインタビューに基づく計量テキスト分析から—	Lifestyles, Eating Behaviors, and Eating Attitudes that Affect the Frequency of Vegetable Intake in Late Middle-aged Men and Women
吉田 瀬七	3T3-L1 脂肪細胞におけるZhxファミリー遺伝子の発現調節機構の解析	Analysis of regulatory mechanism of Zhx family gene expressions in 3T3-L1 adipocytes

1年間の研鑽の成果を発表 第10回松本大学教員研究発表会

研究推進委員長・教授 増尾 均

2月22、24日の2日間にわたり、第10回教員研究発表会を開催しました。今年は一つの会場で、中1日空けた両日午後の開催になりましたが、29名のエントリーで30演題の発表がありました。新しく着任した教員の研究発表があったり、学内の研究助成とは関係なく2名の教員からの発表もあり、この研究発表

会への関心の高さが見受けられました。

本年度は、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の流行のため、学外をフィールドとする研究は遂行上多大な困難があり、研究を中止せざるを得なかった教員もいました。しかし、そのような中でもさまざまな分野の研究発表が行われ、この研究発表会は



先生方の1年間の研鑽の成果発表の場として相応しいものになったと思います。

最後に、この研究発表会の開催に向けて尽力下さった教職員ならびに大学院生に厚く御礼申し上げます。

発表内容一覧 (順不同)

研究課題	発表者
3T3-L1脂肪細胞におけるcAMP系によるZhx2遺伝子の発現誘導機構の解析と標的遺伝子の検索	大学院 健康科学研究科 / 健康栄養学科 山田 一哉
健康寿命延伸に向けた高齢者および百寿者の栄養および健康状態に関する研究	大学院 健康科学研究科 / 健康栄養学科 青木 雄次
衰えない骨格筋をつくるための運動メカニズム追究	大学院 健康科学研究科 / スポーツ健康科学科 河野 史倫
新型コロナウイルスを契機としたアジア日系中小企業の「人の現地化」進展の可能性	総合経営学科 兼村 智也
資本制約および不確実な生産高に基づいたサプライチェーンコーディネーション	総合経営学科 田中 正敏
次期学習指導要領に向けたスマホアプリプログラミング教材の開発	総合経営学科 室谷 心
大学アカデミック・ライティング教育における学習者と大学院生指導者の成長	総合経営学科 宇部 伸之
戦時期華南占領地における国策会社の活動実態—台湾拓殖株式会社の海南島畜産事業を中心に—	総合経営学科 岡崎 滋樹
マクロ・ブルーデンスの視点に立った資本バッファー	総合経営学科 佐藤 嘉晃
町内会・自治会活動におけるエージェンシーと自己形成	観光ホスピタリティ学科 松田 武雄
ELISAによる定量と経口負荷試験による、低アレルゲンリンゴの探索	健康栄養学科 沖嶋 直子
幼児の足趾圧とアライメントとの関係について	スポーツ健康学科 中島 弘毅
中強度のレジスタンス運動が一過性に呼吸循環器に及ぼす影響	スポーツ健康学科 山本 薫
地域民話を取り入れた絵本童話の作成と活用による地方の文化創生	スポーツ健康学科(教職センター) 山崎 保寿
松本大学教職センターの充実を目指した教職課程コアカリキュラムと教員育成指標の接続に関する研究開発	スポーツ健康学科(教職センター) 山崎 保寿
社会科授業におけるFUMIEテストを用いた児童の女性に対する潜在意識測定	学校教育学科 秋田 真
SDGs達成のためのESDに関わる教材の試作・開発—堤防決壊のメカニズムを学ぶ防災教育教材の開発とその評価—	学校教育学科 澤村 教淳
東アジア4カ国における「偽装数学嫌い」中学生の検出と救出：国際共同研究の企画	学校教育学科 守 一雄
ジャグリング体験研修プログラムの改善に向けて	学校教育学科 樋口 大
スピーキング力向上のための指導の在り方(Paraphrasing技法の明示的学習を通して)	学校教育学科 和田 順一
幼年期におけるわらべうたの教育的効果に関する研究	学校教育学科 安藤 江里
多世代交流型のコミュニティづくりを通じた地域防災活動に関する研究	学校教育学科 大蔵 真由美
小学校第5学年「割合」に関する教科書分析及び児童の実態把握に向けた取組	学校教育学科 佐藤 茂太郎
Developing the Intercultural Sensitivity of Pre-Service Educators by Investigating Orania, South Africa	学校教育学科 Sean Collin Mehmet
高校生における社会的達成目標が学校適応を予測する過程の検討：感情経験に着目して	学校教育学科 海沼 亮
小学校初任者教員の国語科授業の実践知構築のプロセス分析	学校教育学科 上月 康弘
地域における実践的マーケティング活動	松商短期大学部(商学科) 金子 能呼
主観的健康感と生活習慣—特に運動習慣に注目して—	松商短期大学部(商学科) 川島 均
非常利組織会計における資金会計論の位置づけ	松商短期大学部(商学科) 上田 敬
銀行破綻処理法制の考察	松商短期大学部(経営情報学科) 飯塚 徹

多くの学生が将来の夢や目標に向けて資格試験に挑戦 ～手厚いサポートと資格奨励金制度で学生を応援～

副学長・松商短期大学部長 浜崎 央



松本大学では表計算やワープロなどの情報処理の資格や漢検や英検、TOEICなどの教養系の資格は学部・学科を問わずすべての学生に対して取得を推奨しています。それらの資格に加えて、産業カウンセラーや防災士、社会福祉士、管理栄養士や健康運動指導士、教諭免許状から司書や医療事務など、それぞれの学部や学科の学びの特徴を生かした数多くの資格や免許の取得が可能となっています。もちろん、資格や検定はその取得自体がゴールではありませんが、自ら身に付けた知識や技術、能力を客観的に証明するものでもあり、多くの学生が将

来の夢や目標に向けて資格試験へ挑戦しています。そのような学生を応援するために、松本大学の教務課には資格取得に関する支援を行う部署が用意されています。資格試験の申し込みから本学を会場とする試験の運営や可否の発表、検定に対する相談など、主催団体と受験者との間を取り持つ様々なサポートが行われています。さらに、資格試験の合格者に対しては奨励金制度も用意されており、すべての資格や合格者に対してではありませんが、級や難易度に応じた約40種類の資格への合格者に対して、受験料相当の金額から上限5万円まで

の奨励金が用意されています。奨励金制度の対象となる資格や級またその金額などは、毎年、資格取得を支援する部署によって見直しがされており、例年、数多くの学生がこの資格取得奨励金を取得し、モチベーションの1つにもなっています。今後も、資格取得には積極的に挑戦して、その知識や技術、能力を活かして地域社会で活躍する人材に成長してもらいたいと考えています。

【本学で取得可能な免許・資格一覧】

▼総経営学部

総経営学科
■ ファイナンシャル・プランニング技能検定 (FP)
■ ITパスポート試験
■ 基本情報技術者試験
■ 産業カウンセラー (受験資格)
■ 高等学校教諭一種免許状 (商業) (情報)
■ 司書教諭資格
■ 介護職員初任者研修 ^{※3} 等

観光ホスピタリティ学科

■ 総合・国内旅行業務取扱管理者
■ 学芸員
■ 社会教育士
■ 社会福祉士 (受験資格)
■ 社会福祉主事 (任用資格)
■ 防災士
■ 自然体験活動リーダー (NEALリーダー)
■ 高等学校教諭一種免許状 (公民)
■ 中学校教諭一種免許状 (社会)
■ 小学校教諭二種免許状 ^{※1}
■ 高等学校教諭一種免許状 (地理歴史) ^{※1}
■ 司書教諭資格
■ 介護職員初任者研修 ^{※3} 等

▼人間健康学部

健康栄養学科
■ 栄養教諭一種免許状
■ 管理栄養士 (受験資格)
■ 栄養士
■ 食品衛生管理者 (任用資格)
■ 食品衛生監視員 (任用資格)
■ フードスペシャリスト (受験資格)
■ 健康運動実践指導者 (受験資格)
■ レクリエーション・インストラクター
■ フードコーディネーター3級
■ 健康食品管理士 (受験資格)
■ HACCP管理者 (基礎科目認定)
■ 介護職員初任者研修 ^{※3}

スポーツ健康学科

■ 高等学校教諭一種免許状 (保健体育) (保健)
■ 中学校教諭一種免許状 (保健体育) (保健)
■ 養護教諭一種免許状
■ 小学校教諭二種免許状 ^{※1}
■ 司書教諭資格
■ 健康運動指導士 (受験資格)
■ 健康運動実践指導者 (受験資格)
■ 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 ^{※2}
■ 日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャー
■ 日本サッカー協会公認C級コーチ
■ トレーニング指導者 (受験資格)
■ レクリエーション・コーディネーター (受験資格)
■ レクリエーション・インストラクター
■ スポーツ・レクリエーション指導者
■ 第一種衛生管理者
■ 介護職員初任者研修

▼教育学部

学校教育学科
■ 小学校教諭一種免許状
■ 特別支援学校教諭一種免許状 (教育領域: 知・肢・病)
■ 中学校教諭一種免許状 (外国語 (英語))
■ 高等学校教諭一種免許状 (外国語 (英語))
■ 司書教諭資格

▼松商短期大学部

商学科・経営情報学科	
■ 日商簿記検定	■ 調剤報酬請求事務技能検定
■ 全経簿記能力検定	■ 医事コンピュータ技能検定
■ 情報処理技能検定 (データベース)	■ レセト・点検業務技能検定
■ 文書デザイン検定	■ 図書館司書
■ MOS (Excel / Word / PowerPoint)	■ ファッションビジネス能力検定
■ ホームページ作成検定	■ 小原流筆道 初等科・本科
■ ITパスポート試験	■ 茶道表千家 入門・習事
■ ファイナンシャル・プランニング技能検定 (FP)	■ アロマセラピー検定
■ 証券外務員試験	■ 色彩検定
■ リテールマーケティング (販売士)	■ ペーパーシッター
■ TOEIC Bridge	■ ユニバーサルデザインコーディネーター
■ 日本語能力試験	■ 福祉住環境コーディネーター
■ 韓国語能力試験	■ 介護職員初任者研修
■ 秘書技能検定	■ アソシエイトプライダルコーディネーター認定試験
■ ビジネス文書検定	■ プライダルコーディネーター技能検定試験
■ 医療事務検定	
■ 医師事務作業補助者修了証	
■ 保険請求事務技能検定 (歯科)	
■ メディカルマナー検定	
■ 介護報酬請求事務技能検定	

※1 明星大学通信教育部との教育業務提携により取得することができます。 ※2 養成講習会における共通利用の受講が免除されます。 ※3 他学科履修して修得することにより資格が付与されます。
● 任用資格とは、所定の科目を履修し、単位を修得し、卒業後にその資格に関連する職務に就業した場合に申請のうえ取得できる資格です。 ● HACCP: Hazard Analysis and Critical Control Pointの略
● 下記以外の全学部共通で目指せる推奨資格: 情報処理技能検定 (表計算)、日本語ワープロ検定、実用英語技能検定、日本漢字能力検定、TOEIC、TOEFL、ニュース時事能力検定 など

公務員採用試験 今年度も多数の合格者を輩出!

昨年に続き、多くの学生が公務員採用試験を突破しました。2021年度の合格状況は以下の通りです。公務員を目指す学生には、公務員試験の高い合格実績を誇る東京リーガルマインド (LEC) と連携し、正課

外の公務員試験対策講座を開講しています。また、2022年度より学部・学科横断型の「公共政策教育プログラム」を設置し、学生たちの希望進路が実現するよう、全学一丸となって支援していきます。

長野県庁 1名、群馬県庁 1名、松本市役所 1名、安曇野市役所 1名、朝日村役場 2名、阿智村役場 1名、日進市役所 1名、津南町役場 1名、長野県警察 5名、松本広域連合 2名、自衛隊 1名

(2021年12月末時点)



一般2名・卒業生2名が受賞!!

2021年度

「松本大学教育実践改善賞」

～ 長野県全体の教育振興を目的に創設 ～

全学教職センター長・教授 山崎 保寿

長野県全体の教育振興を目的に松商学園創立120周年を記念して創設した松本大学教育実践改善賞が4年目を迎えました。2021年度は、一般教員部門に9名、卒業生部門に3名、合計12名の応募がありました。厳正な審査を経て、一般教員部門に2名、卒業生部門に2名が本賞に輝きました。

受賞論文の内容は、一般教員部門では、ICTを活用し子ども達の気づくに基づく探究学習にオンライン学習を取り入れた先進的な理科授業に関する研究と、コロナ禍の中で職場体験の代替学習として生徒が主体的に取り組んだキャリア教育に関する実践的研究でした。卒業生部門では、経済産業省のEdTech導入方針を踏まえ2年間に

わたるプログラミング指導に関する先進的な研究と、運動の苦手な児童も運動課題の達成に向けて「協動的な学び」を追究した実践的研究でした。

いずれも、教育実践の工夫と改善に優れ、長野県教育界への波及効果と貢献度が大きい点が高く評価されました。

また、優れた論文の応募が多かったため、特別賞を8名に授与しました。本賞への応募が、長野県教員のさらなる意欲向上につながり、また、卒業生には教員として一層の力量向上を図るための目標になれば誠に幸いです。

受賞者のみなさんからのコメントを紹介します。

〈松本大学教育実践改善賞〉 ※掲載は受付順、敬称略

一般教員部門



■ 矢口 紘史さん (大町市立八坂中学校教諭)

「理科教育におけるICTを活用した協動的な学びに関する実践研究」

この度は、教育実践改善賞に選出いただきまして誠にありがとうございました。本研究は、立地が離れた山間小規模校である八坂小・中学校で、両校を兼務したことをきっかけに、

ICTを活用しながら地域の自然や実物を学習材として用いて、子どもの発達段階に応じた協働の学びの在り方について探究し、授業実践したものです。このような年間を通して、小・中学生との学びを同時に見つめる機会を与えていただいた関係者の皆様

に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、これからも教科の本質と協動的な学びを深めるために、ICTをどのように生かすことができるのか、目の前子どもたちと共に学び続けていきたいと思ひます。

■ 新井 祥太郎さん (飯田市立旭ヶ丘中学校教諭)

「地育力を活かしたキャリア教育における主体的な学びの創造 —コロナ禍における生徒たちと共に創るキャリアフェスティバルの実践から—」

この度は、名誉ある賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。今回応募した論文は、コロナ禍の今だからこそ得られたキャリア教育に対する知見や実践をまとめたものになります。人と人とのつながりを断たれるような暗い日々が続くコロナ禍の中で、生徒や同僚

の先生方、地域のみなさんとのつながりを原動力とした研究・実践ができたこと、そして、その実践に対して評価をいただけたことを大変うれしく思っています。この場を借りて、今回の実践を支え、共に築き上げてくださった全ての方に感謝を申し上げます。

ありがとうございました。今回の受賞を心の糧にし、生徒とともに日々学び続けるという初心を忘れることなく、私自身もさらに研鑽を積んでいきたいと思ひます。

卒業生部門



■ 浅見 大輔さん (長野県諏訪実業高等学校教諭)

「EdTechを活用したウェブページ作成とプログラミングの授業実践」

このたびは名誉ある賞を頂きましたこと、誠に光栄に思ひます。これまでの教育活動を支えてくださった皆様に感謝しております。この実践は、新しい学習指導要領やGIGAスクール構想などによって目指されている個別最適な学びについて、経済産業省の補助

金を利用してEdTechを導入して行ったものです。多様な生徒それぞれに寄り添った指導を行いたいと多くの先生が試行錯誤されていることと思ひますが、私も一人一台端末の活用やEdTech、授業改善によってこれを実現したいと考えています。これまでの6年間という短い教員生活ですが、学習や教育を取り巻く環境の変化、情報社会の

変化は大きいものだと感じています。このような社会において目指すべき教育や自身自身の指導について見つめなおすきっかけを与えてくださるのがこの賞であります。今後も生徒とともに学びながら、より良い授業を作っていけるよう研究と修養を重ねていきたいと思ひます。



新原 徳子さん (千曲市立東小学校教諭)

『わかる』と『できる』をつなぐ『協働的な学び』を目指した実践的研究 —小学校体育における授業づくりの工夫—

この度は2021年度「松本大学教育実践改善賞」という名誉ある賞を頂きありがとうございました。本論文の査読・選考をして頂いた先生方、本研究に関してご指導、ご協力頂いた関係各位にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

私は本学を卒業し2年が経過としております。教員となり運動が得意な子も苦手な子も夢中になって取り組める体育授業を追い求めてきましたが、なかなか思うようにいきませんでした。稚拙ながら2年間にわたって授業改善に取り組んできたことで、少しずつですが目指すべき授業の姿が見え始めて

きたような気がします。まだまだ力不足は否めませんが、今回の受賞をスタートラインとし、これからも学び姿勢を大切に授業改善に取り組み、子どもにとって「楽しい体育授業」を希求し続けたいと思います。

〈特別賞〉 ※掲載は受付順、敬称略

一般教員部門

- 工藤 弘 (安曇野市立豊科東小学校教諭)
「特別支援学級(自閉症情緒障害児学級)における『教えあい(支えあい)SST』と『ポジティブ道徳カード法』の応用的な取り組み」
- 塚田智彦 (長野県松代高等学校教諭)
「Google Classroomと統合型校務支援システム」
- 小池 晃 (長野県南安曇農業高等学校教諭)
「農業教育における農業マーケティング学習の導入実践 —郷土愛を軸とした地域農業や地域社会を担う人材育成—」

- 二村 俊 (大町市立大町北小学校教諭)
「ICT機器等を学習で活用しよう!!」

- 宮島雅子 (塩尻市立吉田小学校教諭)
「コロナ禍における宿泊学習の感染症対策 —児童が行う睡眠のセルフモニタリングの取り組みを中心に—」

- 丸山裕也 (長野県飯田養護学校教諭)
「生徒と一緒に『楽しい』授業をつくる —リアクション(反応)と振り返りを活かした授業実践—」

- 磯尾智子 (松本市立岡田小学校教諭)

「仲間と共にかかわり合いながらできるようになる、楽しいなわとびの授業づくり」

卒業生部門

- 菅沼真流 (茅野市立豊平小学校教諭)

「体育授業における自己課題解決に向けた授業改善の取り組み」

教職を目指す後輩へ先輩から激励とメッセージ

▶教育学部

先輩教師から学ぶ会 —未来の仲間たちへ向けて—

1月6日、「初等教育実習事前・事後指導」の授業の一環として「先輩教師による講話」を教育学部卒業一期生3名(長野市立古牧小学校教諭・岡本昂大くん、辰野町立辰野西小学校教諭・宮澤和可奈さん、塩尻市立吉田小学校教諭・宮入永佳さん)による授業が行われました。受講している2年生86名と3年生91名に対して、一人ずつ講話をしていただきました。

講話内容は、勤務校での取り組みの様子、現場で求められる教師像、教育実習に向けて、教採対策のアドバイス等でした。岡本くんは、教育実習の目的を①教員の仕事や一日の流れを知るため②教職の道に進むのか自己決定をするため、とらえ、大事なことは、「あいさつ」「分からないことは何でも聞く」「先生としての自覚」をあげて説明しました。教員採用

試験対策については、対策問題集を5周以上すること。教員の給料・福利厚生、職場環境にも触れ、自分のとらえ方次第だと解説しました。一年生の担任としての子どもへの願いを熱く語りました。

宮澤さんからは、理想と現実のギャップについて、校風・子ども・同僚・保護者の視点での話がありました。六年生の担任になった宮入さんは、子どもと一体になって取り組む様子を写真で示し、やりがいや充実感を語ってくれました。教採対策については、自身の模擬テストの結果を示し、その対策についてどのような努力をしたのか、具体的に話してくれました。

受講した3年生は、「教師という仕事に誇りを持ち、結果が出た時の達成感を嬉々として話しているのを聞き、決して辛いだけじゃなく、

学校教育学科・教職支援センター長
教授 征矢野 達彦



講話をする一期生の岡本昂大くん

やりがいのある仕事だということを感じ、益々教職につきたいという意欲が沸いた」、2年生は、「教育実習への不安を持っていたが、教育実習を楽しもうという気持ちになった」などの感想が寄せられました。現場で働く先輩の話は、教育実習や教職へ向かうとするとする学生にとって、自分を見返す有益な時間となったと感じています。

▶総合経営学部・人間健康学部

教員採用試験合格者を囲んで学生が交流

教職を目指す学生が採用選考合格者(4年生)と交流する会を、1月13日対面・オンライン併用で開催しました。当日は30名が参加し、第I部では4年生5人が「教採対策から二次試験合格まで」と題して体験を語り、第II部では個別のブースに分かれて質疑応答が行われました。4年生の語りは、学習スケジュールや工夫、苦しい時にどのように自分を支えたか、教職やこれから出会う児童・生徒への思い等にわたり、後輩にあたたかい励ましを送りました。アンケートには、「受かった人たちの一つ一つの言葉に重みを感じ、共感することができた。自分も次の世代にこうして伝えることができるよう結果を出せるようにしたいと思った」など、感銘を受けた様子や感謝の声が多く記されました。

総合経営学部・人間健康学部 教職センター
准教授 藤江 玲子



キャリアセンター内に オンラインでの就職活動用面談ブースを設置

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、採用活動をオンラインで実施している企業が増えてきています。今回、松本大学同窓会より、オンライン個室面談ブースを2台ご寄付いただきました。この面談ブースは、四方が120cmの電話ボックス型の個室になっており、扉を閉めれば話し声が外に漏れることはほとんどなく、また一人でゆったりと利用することができるため、より集中して、オンライン面談ができるのが特徴です。これまで、キャリアセンターでは、学生から企業の採用担当者とオンラインで面談するための場所を貸してほしいとお願いされた際は、学内の空いている個室を探して対応してきましたが、今回この面談ブースの導入によって、より多くの学生のオンライン対応が可能となりました。コロナ禍で就職活動におけるオンライン化が進むなか、学生の



利便性も考慮しながら、今後より一層学生の就職支援に努めてまいります。
(キャリアセンター 課長 中村 礼二)

久しぶりの再会を喜び合った 今年度2回目の「卒友会」

新型コロナウイルス感染急拡大直前の1月8日に、感染対策を講じた上、対面にて今年度第2回卒友会を開催しました。本学を会場に、教職に就いた卒業生、在学生、本学教員、教職センター専門員・事務職員39名が集まり、久しぶりの再会を喜び合いました。全体研修では教育学部秋田真教授の講演「授業づくりと教材研究～今求められることとその対応～」を行いました。その後の分散会では小学校・特別支援学校、中学校・高等学校、養護教諭の3グループに分かれて日頃の教育や仕事に関する情報を交換したり、悩みを聞き合ったり、本学教員・専門員を交えて議論を深めました。今回は分散会の時間を長めに取った分情報交換が進み、学校現場が抱える課題の多さと深さが浮き彫りになりました。それでも参加者からは「もっと話したかった」という声が多数あり、閉会後も各所で名残惜しそうに話し込んでいるグループが幾つもあったのが印象的でした。
(教職支援センター 専門員 矢野口 仁)



卒業記念品のAirdog(高性能空気清浄機)を設置

学内では、新型コロナウイルス感染予防のため、定期的な換気・清掃を行っています。さらなる予防対策として高性能空気清浄機“Airdog”を6台、学内に設置することとしました。これは2021年度卒業生から、卒業記念品として贈呈されたものです。

この“Airdog”は、シリコンバレーが開発した米国特許取得の独自テク

ノロジー「TPAフィルター」を搭載した空気清浄機です。電磁場をつくることにより有害物質をプラスイオンで帯電させ、磁石のようにフィルターに汚れを吸着させることで、ウイルスの6分の1より細かい0.0146mmの微細粒子の全99.8%の除去を可能にします。また、フィルターは洗えるので、清潔に保つことができます。すでに全国10,000か所以上の医療施設や教育施設をはじめ、宮内庁、宇宙関連事業施設などにも導入されています。

3号館ラウンジ及び9号館レストラン、7号館及び9号館の各コモンルームに設置させていただきます。本学では引き続き感染防止対策に取り組んでいくとともに、学生が安心できる空間づくりを進めていきます。卒業生の皆さんに心より御礼申し上げます。

(事務局長 赤羽 研太)



大学院総合経営研究科の設置にあたり 同窓会より500万円の寄附

昨年8月、文部科学省から設置認可を受けた大学院総合経営研究科修士課程の2022年4月設置にあたり、松本大学同窓会から500万円の寄附をいただきました。新年度からは、既存の健康科学研究科に加えて新たな研究科が設置されます。

菅谷昭学長は今回の寄附に対して「高度な教育研究活動を推進する

ため、有効に使わせていただきます。」とし、2月16日、小島恵子同窓会長に感謝状を贈呈しました。

同研究科は、高度な経営知識を身につけ、地域社会における様々な経営課題の解決に寄与し得る職業人を養成し、社会に貢献することを目的としています。

(事務局長 赤羽 研太)



一人暮らしの学生へ食料支援

新型コロナウイルスに感染したり、濃厚接触者となった一人暮らしの本学学生に対し、食料等の支援を行っています。家族や友人からの援助が難しい場合に、教職員が大学生協でスポーツドリンクや調理不要な食品等を調達し、無料で玄関先まで届けます。今回、自宅療養をする学生から

支援を求める声があり、急遽計画しました。アレルギーにも配慮しつつ、緊急性が高いため、できる限りのスピード感をもって対応しています。学生が孤立しないように、今後も支援を続けてまいります。



男子サッカー部

創部以来初となるJFL選手を輩出 瀬戸 匠海選手 FC神楽しまねへ入団



背番号17 瀬戸 匠海 選手
(ポジション/MF)

この度、男子サッカー部の瀬戸匠海さん(スポーツ健康学科4年)が、日本フットボールリーグ(JFL)のFC神楽しまねへ入団しました。弊社からJFLクラブへ選手を輩出するのは初めてのことです。

2007年の創部当初、県内の高校生が県内でサッカーを続けられる環境はごく限られており、プロサッカー選手を目指して競技を続けたい県内の高校生の受け皿になることが本学サッカー部の果たすべき重要な役割の一つで

あると考えてきました。瀬戸くんは辰野町出身で東海大諏訪高校卒業後、プロサッカー選手を夢見て本学へと進学してきた“長野県産”の選手であり、一つのモデルケースになると思います。

FC神楽しまねは昨シーズン、JFL17チーム中5位の強豪です。瀬戸くんは「今まで支えてくださった人達に感謝の気持ちを忘れずに頑張りたい」とコメントを寄せてくれました。

今後のさらなる飛躍を期待しています。頑張れ、瀬戸匠海!!

(男子サッカー部部長兼監督 齊藤 茂)



硬式野球部

下記の日程で春季1部リーグ戦が開催されます。皆さまのご声援よろしく申し上げます。

関甲新学生野球連盟 春季1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	9	土	山梨学院大学 - 松本大学	12:30	白鷲大学野球場
第2節	4	10	日	松本大学 - 白鷲大学	12:30	白鷲大学野球場
第3節	4	16	土	作新学院大学 - 松本大学	12:30	白鷲大学野球場
第4節	4	17	日	松本大学 - 上武大学	12:30	上武大学野球場
第5節	4	23	土	松本大学 - 新潟医療福祉大学	10:00	上武大学野球場
第6節	4	24	日	松本大学 - 平成国際大学	12:30	上武大学野球場
第7節	5	7	土	新潟大学 - 松本大学	12:00	松本大学野球場
第8節	5	8	日	松本大学 - 常盤大学	12:30	白鷲大学野球場
第9節	5	14	土	関東学園大学 - 松本大学	12:30	山梨学院大学野球場

※日程・会場は、都合により変更となる場合があります。

退職のあいさつ

退職にあたっての私の3つの予言

学校教育学科 教授 守 一雄



終わってみると短い間でしたが、楽しく有意義な5年間でした。退職にあたって、以下の3つの予言をします。

- ① 2030年までに松本大学教育学部に大学院ができる。
 - ② 2040年までに松本大学の学費が無料になる。
 - ③ 2050年までに松本大学のすべての授業が英語でなされるようになる。
- 予言が正しかったかどうかを知るために百歳まで生きようと思います。皆様もお元気で30年後の予言の実現を楽しみにしてください。

「出会い」

学校教育学科 教授 小林 敏枝



松本大学教育学部の設立から完成年度+1年間、新しい挑戦に関わらせていただきました。5年間でしたが、その時間は私にとって大変有意義な時間でした。青森から九州まで、日本中から集まった先生方との出会いは宝物です。1期生、2期生・・・と学生を迎えて完成年度で4学年がそろい、1期生の卒論発表会、卒業式はやはり嬉しかったです。また、仕事を通じて知りあった子ども病院の看護師さん、訪問看護師さん、放課後児童デイの指導員の方々からは多くのことを学びました。そのすべてが宝物です。感謝です。今後の松本大学の発展を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

平和教育の実践に期待して

学校教育学科 教授 羽田 行男



短い間でしたが、多くの学生たちとの交流は私の宝です。とりわけ、輪読後のゼミ生たちの自由闊達かつやや長めの意見交換。大学における学びの本質に触れる思いがしました。今世紀になっても、信じられないことが容易に起こってしまう現実社会を目の当たりにして、平和を守り抜く覚悟が心の奥底から沸き起こってきます。学生の皆さん、他国における出来事を我がこととして感じ、模索し対話を重ねてください。あなたたちの行動が、よりよい社会を築く原動力になるはずですよ。

感謝

スポーツ健康学科 助手 熊谷 麻紀



ご関係の皆様、在職中は大変お世話になりました。本学では主に「健康づくり」に携わらせていただき、地域でのさまざまな活動や教育に参画する機会を与えていただきました。これもひとえに、先生方をはじめ、皆様方のおかげです。このような貴重な経験は、自身の糧として新たな場でも発揮したいと存じます。最後になりますが、皆様方の益々のご活躍と、ご健康をお祈り申し上げます。

過ぎてみれば、あっという間でした。

総務課 主事 小池 以津美



高綱中学校前の田んぼに家族でいながら取りに来た50年前遠いなと思いました。父の友人を波田まで車で送った40年前の夜の旧道はまっすぐだけど狭くて暗い道でした。30年前短期大学部経営情報学科増設の要員として着任、新道は明るく広く思っていたより近く感じました。1日の大半を大学で過ごした日々から30年余、気づけば時と共に少しずつ何かが変わり大学も大きくなりました。この頃は渋滞横目に夕暮れ時上空の飛行機にロマンを感じながら時の流れを実感しています。

ベートーヴェンの交響曲第2番

総合経営学科 専任講師 宇都 伸之

クラシック音楽を聴かない人でも、ベートーヴェンという大作曲家の名前は知っているし、彼が耳の聞こえない作曲家であったことも知っているはずである。現在でも人気の高い彼の傑作の多くは、すでに難聴が進行してから作曲されたものが多い。ところで、彼の難聴がまさに始まった時期に作曲された音楽はどのようなものであったのだろうか。

彼の難聴が悪化した時期に、彼は『ハイリゲンシュタットの遺書』という弟に向けた手紙を書いている。俗にいう自殺をするときに書く遺書ではなく、彼の死後に発見されたという意味で『遺書』と呼ばれていると理解するの

が正しいであろう。『ハイリゲンシュタットの遺書』からは、彼の難聴に対する激しい絶望を窺い知ることができる。しかし、彼は自らの命を絶つという選択をとらず、芸術家としての人生を全うしようとする強い決意もこの遺書に残している。『ハイリゲンシュタットの遺書』が書かれた時期に、彼は大きな絶望と向き合い、同時に芸術家としての人生を全うしようとする精神的な克服を遂げたのである。

『ハイリゲンシュタットの遺書』が書かれたほぼ同時期に作曲されたのが交響曲第2番であるが、興味深いことにこの音楽から彼の苦悩の形跡は全くみられないのである。むしろ

その逆で、特に第2楽章の優しさに満ちた美しい旋律は、とても難聴に苦しんでいた人が作曲したものとは思えないものである。

ベートーヴェンほどではないにしても、人生の困難に向き合うことは誰もが経験することである。ベートーヴェンは芸術家としての運命を全うすることでその困難を克服し、第2番のように極めて優しく美しいかたちで達成された。ベートーヴェンの精神的な強靭さを感じるとともに、どのような困難に向き合った時でも自分の人生を全うする勇気を与えてくれるという意味で、第2番はあまり知られていない曲であるが、私にとっては名曲である。

OPEN CAMPUS 2022

●松商短大限定

4/17(日) 松商短大一日体験
(入試、授業、資格、就職、学生生活なんでもご相談ください)

●松本大学・松商短大 同時開催

5/22(日) 6/26(日) 7/17(日) 7/31(日) 8/21(日) 9/25(日)

午前の部 10:00▶12:30
(受付9:30から)

午後の部 13:00▶15:30
(受付12:30から)



大学の雰囲気や学びの環境、学生生活などが体験できるプログラムを用意しています！

1. 学科説明会

学科の特徴やカリキュラム、資格取得から就職状況などを各学科ごとにご説明します。

2. ミニ講義

授業体験として、毎回異なるテーマで短時間の講義を実施します。

3. 入試相談

各入試の説明から入試準備について、また学生生活や経済支援制度についてもご相談ください。

4. 総合型選抜説明 面接対策講座

入試の流れや面接のポイントなどをご説明します。総合型選抜を受験予定の方は是非！

※内容に変更が出る可能性があります。ご来場前にはホームページにて最新情報をご確認ください。



事前予約制 & 当日の詳細はWEBで！

途中退出
自由

保護者
1名のみ
同伴可

予約は
こちら
から→



松本駅 ↔ 松本大学
無料往復シャトルバス運行

予約
不要

8:30から16:00まで
30分間隔で運行します。

お車でお越しの方は
駐車場を開放します！

無料

学生駐車場を
ご利用ください。

編集後記

新型コロナウイルスの感染が国内に広がってから三度目の春。この春卒業してゆく皆さんは、学生生活の多くの時間をコロナに翻弄され、戸惑い、困惑し、思うように前に進めない苦しい日々の中を過ごしてきたことでしょう。しかし「試練は人を強くする」といいます。この時代を学生として過ごし、コロナに負けることなく学び続け、様々な経験を積んだことは、この先の人生で大きな意味を持つはず。コロナ禍という逆境に立ち向かい、この困難を乗り越えた皆さんは強い!! この先にある新しいフィールドでさらに活躍されることを心より祈っています。

(記・入試広報室長 坂内 浩三)